

春

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報
1999.7
VOL.13

秋

■春秋彩とは…
「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

彩

特集 就 職





KOUKI no ASHTTA 興起の朝。

君の立つ大地に、新しい
光が射す頃。彼方の空に
は夏雲が湧き、天を指
して立ちのぼる。どこか
らか起る風に、木々は梢
を揺らしながら、友々は集
う場に深い緑
陰をつくり出
す。すべての生
勢が増す、
その瞬間。君もまた、進
みゆく未来への雄気に心
を震わせていることだろ
う。あふれる気概を胸に、
ただ一心に前を見つめて
歩みを始めるために。

中身こそ肝心

外国語をものにするのが大切なことは、いまさらいうまでもない。

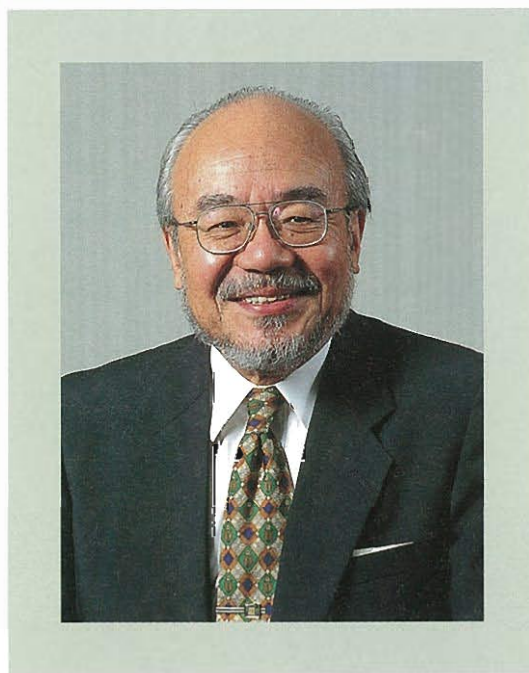
できるだけ幾つもの外国語を、しかも日常のレベルにとどまらず、知的な会話・討論・読み書きの域までマスターする。知性の地平が、当の個人はいわずもがな、日本全体、大きく広がる。何とすばらしいことだろう。ところで、この拡がった地平の中でいつたい何を意思

疎通するのか。

これまで大方そうであったように、ひたすら経済的国際競争のため、あるいは専ら一方的な学術情報輸入のためでは、余りに貧寒、利己的で、実りある精神的交流では到底ありえない。いわんや、上っ面のみのべらべら外国語を振りまくだけでは、親善どころか軽蔑すら買うのが落ちた。

外国語で、堂々、自分のものを、日本のものを世界に発信できなければ、文字どおり話にならない。そのためには、当然、それに値する中身を持たなければならない。

自分のもの、日本のものを考え抜くには、バイリンガルや語学の天才は別として、普通の日本人のわれわれは、語彙、文法、論理、すべて母国語の日本語に拠るほかはない。もちろん、ものにした外国語がその際少なからぬ助けにはなるとしても。この意味では、外国語の学習と同時に、いやむしろ第一義的に、日本語を磨くことこそ肝要である。



熊本県立大学
学長 手島 孝

1	PROLOGUE 興起の朝
2	学長のことば 中身こそ肝心
4	特集 就職
8	研究内容の紹介 こんな研究しています。 <small>文学部/小園敏幸 教授・環境共生学部/深津和彦 教授 総合管理学部/木原佳奈子 助教授・宮園博光 講師</small>
12	学術紀要の紹介
14	教員の紹介 我が師 <small>文学部 星乃 治彦 先生 総合管理学部 高橋 賢 先生</small>
15	留学体験 随筆 プラハ再訪 <small>(文学部 教授 元吉 瑠枝)</small>
16	学生の声 VOICE <small>大学生 期待 出逢いに感謝</small>
18	サークル便り <small>ダイビング部 クライター部 マンドリンクラブ 国際倶楽部</small>
19	卒業生からのメッセージ message for you <small>出会い 堀田祐三子 (神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程在学中) 体験 新屋 智人 (アサヒビール(株)勤務)</small>
20	CAMPUS-NEWS
24	Incident (1999.3-1999.6) Schedule(1999.7-2000.3)

就職活動に向け……

今年2月16日、本学大講議室において「福島正伸先生講演会」が開催されました。この講演会は、(株)アントレプレナーセンター代表取締役社長の福島正伸氏を講師に迎え、学生に対し「夢しか実現しない」というテーマで行われたものですが、大学が企画して実施したものではなく、ある学生が自主的に企画し、学生だけで運営したものとのこと。本学学生課も後援しました。

この講演会を企画・実施した総合管理学部3年の今別府隆宏君に、この講演会のことや就職について思うことなどについて話を聞きました。



総合管理学部3年
今別府隆宏

99年2月に東京にある(株)アントレプレナーセンター社長の福島正伸さんを県立大学にお迎えし、「夢しか実現しない」というテーマで講演をしていただきました。福島さんはどのような考えを持ち仕事をすべきなのか、私たちがどのように生きていかなければならないのか、といった問題を起業家の成功例などを通じて、わかりやすく、ドラマチックに話してくださいました。ではどうして私が講演会なんかを企画したのかと申しますと、以前聞いた福島さんのお話に完膚なきまでに感動したので、皆さんにも聞いていただきたいと思ったからです。特に就職に対して高尚な考えを持ち講演会を企画したわけではありません。極言してしまえば、私は就職はどうでもいいです。なぜなら、こんな私にも皆さんと同じように、どんな職業についてもその道のプロになる自信と気概があるからです。しかし、私の

自信と気概が年の若きゆえに独り善がりである身のないものである危険性に満ちているのは事実です。自分が社会に対し何ができるのか、自分は愛する人を守るのか、自分は人間として生きるのに値するのか、このような問いに対して胸を張って言える答え、どんな障害をも乗り越えるやる気。この自信と気概の根拠を自分が示すことができるように私は勉強をして活動をするのです。このような理由で大学にいるのであり、いい就職先を得るために大学にいるわけではありません。ですから、自然と就職については「なるようにしかならない」と考えてしまうのです。つまり、就職は自分を写す鏡であり、今からジタバタしても遅いかなと思うのです。私としては今やれることを地道にしていだけいです。

偉そうに書きましたが、皆さんの就職にはなんの足しにもなりそうにありません。もし「これが就職だ！」とか、「これをしとけば就職に有利！」などの情報があつたら教えて下さい。

お前の考え方は甘い！もつと気合い入れろ！などのご意見もお待ちしております。
80973028@pu-kumamoto.ac.jp



福島正伸先生講演会 (1999.2.16)



身に付けよう 積極・明朗・協調



総合管理学部教授
野村 武

毎年一年生を迎え、そして四年生を社会に送り出しているが、大学生活の四年間で一人一人の学生が素晴らしく成長するものだと、毎回ながら感慨を深くしている。つまり、高校生然とした一年生が、四年生に近付くと社会人の雰囲気を持つようになってくる。それは授業で知識を豊富にし、また研究で考察力を深め、さらにゼミやクラブ活動で交遊術を身に付けていくことで、総合的な成長を遂げているからといえよう。

一方、企業社会が学生諸君に主に求めているものは次の三つである。第一は「積極性」である。やる気を持っていか、眼が光っているかと言いつてもよい。第二は「明朗性」である。会話の合間に笑顔が見られるかと質してもよい。第三は「協調性」で、皆とチームプレイができるかと尋ねることになる。

私の40年近いサラリーマン経験からいふと、就職試験の初めの審査は大学の成績や入社試験の成績で判断されるが、後半の面接選考では先述の素質判定が重点になってくる。これらの素質の習得は付け刃では駄目である。大学の自由放任主義にかまけて、ルーズにしている間に合わなくなる。二年、三年の頃から意識して行動し、充分に習得した上で就職の難関を突破してほしいものである。

平成11年度就職支援スケジュール

	学生の動き	企業等の動き	就職支援	
			学生支援	公務員・教員関係
4月	各種企業ガイダンスへの参加(～6月) (企業説明会) OB訪問(～5月) (会社訪問) 企業採用試験受験(～6月) 模擬面接(随時)(～6月) 大学健康診断(自赤)受診 (管理栄養士国家試験受験)	合同企業ガイダンス(～6月) 個別会社説明会開催(～6月) 企業採用試験 第1回全国就職指導ガイダンス	求人票発送(約3,500社) 求人票受理・揭示 推薦書の発行(随時) 校内企業セミナー(6月まで随時) 模擬面接(～6月) 就職関係図書の実売(～3月)	各種公務員採用試験説明会 (国家Ⅱ種、熊本県、熊本市ほか) 国家公務員願書取寄 公務員試験直前対策(～6月) (直前講座、自習室の開放等) 公務員模擬試験、教員模擬試験 九州各県職員・教員願書取寄 公務員模擬試験、教員模擬試験
5月		内定開始	第1回就職活動(内定)状況調査 情報処理技術試験対策講座 (～9月)	
6月		国家第1種一次試験(6/13) 国税・労基・裁判所一次(6/20) 各県・熊本市職員一次(6/27)	就職あれこれ情報発行	
7月		九州各県教員一次試験 各県職員一次試験合格発表	就職ガイダンス(3年次生対象) 第1回進路希望調査 3年次住所公開意思確認 H12就職ガイド作成開始 教育法規特別講義	二次試験合格者支援 (論文指導、面接対策) 公務員ガイダンス(3,2年次向) 公務員講座説明会
8月		国家Ⅱ種一次試験合格発表 国家Ⅱ種官庁業務合同説明会 各県職員二次試験合格発表	H12企業向けパンフレット作成開始 教職ほかき発送 企業採用状況調査	
9月		国家Ⅱ種最終合格者発表 県内市町村職員共同採用試験	企業見学会 就職あれこれ情報発行	
10月	自己分析開始(3年次生) 受験報告書の提出(4年次生)	正式採用内定開始 熊本県教員最終合格発表	就職講座 公開模擬面接(3年次対象) 第1回3,4年次生進路相談懇談会 進路個人面談(3年次対象) 第2回採用内定状況調査 企業訪問(内定者、採用情報収集)	公務員ガイダンス(3,2年次向) 公務員講座説明会 公務員講座開催(～6月) (3年次対象、2年次対象) 第1回公務員模擬試験(～6月) (本試験まで8回程度実施)
11月		企業で2年度採用予算決定・応募書 第1回全国就職指導ガイダンス	就職ミニガイダンス(自己分析編) 就職シゴキソフム 第1回企業との意見交換会 職業適性検査 就職活動マナー講座	
12月			就職ミニガイダンス(企業研究編) 就職あれこれ情報発行 企業情報OB調査	熊本公務員試験説明会
1月	企業研究開始(資料請求等)		就職ミニガイダンス (履歴書・エントリーシート書き方編) 4年次生進路進捗調査開始	教員ガイダンス 教員模擬試験
2月	履歴書用写真撮影 進路登録カードの提出(～3月) 模擬面接(随時)(～12年度) 各種企業ガイダンスへの参加 (～12年度) (企業説明会) OB訪問(～12年度) (会社訪問)	採用数の大枠決定 就職情報誌への広告掲載など 合同企業ガイダンス開始 (学外)	就職セミナー週報(後期試験後) 就職活動マナー講座 SPI模擬・エントリーシート対策講座 就職懇談会、公務員懇談会 企業研究会 第2回企業との意見交換会 第2回進路希望調査	公務員講座合格
3月		国家公務員試験説明会(人事院) 熊本地区大学事務担当者連絡会	個人模擬面接開始 H12企業向けパンフレットの完成 就職あれこれ情報発行 各種統計データとりまとめ	

就職 支援

進路(就職)意識啓発事業

大学時代、講義を主体としながらも、「サークル・ボランティア・アルバイト何でも良いから「ストーリー」になるような事に打ち込んでもらうため、進路意識の啓発を目的とする各年次毎のセミナーを今年度、初めて実施。

1年次は6月25日に「1年次のためのキャンパスライフセミナー」として「行動ある学生生活を...」をテーマに本学OGの中村レンさんが講演。

2,3年次は4月5日の在学生オリエンテーション時にそれぞれ「大学生活と将来設計について」適性を考える、「自己表現力について」マナーの大切さ」をテーマに外部講師を招き講演を行いました。



セミナー(1999.4.5)
「自己表現力について～マナーの大切さ」



公務員講座合宿

本学では総合管理学部を中心に公務員志望者が多いので、一人でも多くの学生が公務員試験に合格することを目的にさまざまな支援事業を行っています。ガイダンス・試験説明会の他、後援会が学内公務員試験対策講座・学内模擬試験などを実施しています。

また、教員志望者向けにもガイダンス、学内模擬試験を実施しています。

公務員・教員 志望者支援事業



企業研究会

従来、3年次向け就職セミナー週間に行っていた講演形式の業界研究会及びOG企業説明会を、より学生が主体的・積極的に行動できるようブース形式の合同企業研究会を昨年度、初めて行いました。また、同じく就職セミナー週間行事としては初めて企業見学会を実施。福岡県コース・熊本県コース(一般)・熊本県食栄コース・熊本県生環コースの4コースを設定し、企業の現場見学及び業務説明を行いました。研究会・見学会とも直接、企業関係者と話ができるなど有意義であったという感想が参加者の多数から寄せられました。

企業研究会・企業見学会



就職センター

相談時間：月曜日～金曜日 10:00～16:00 (昼休みを除く)

※電子メールや相談メモでも相談に応じています。

就職センター

就職情報提供ときめ細かな
就職指導・親身な就職相談

県内外の求人票、就職情報誌、企業フェアなど、就職活動に必要な情報が揃っています。ここでは、そのような資料や図書の間覧ができるのももちろん、専門の就職相談員(企業の人事部門OB)が常駐して就職相談や指導にあたっています。

また、学内専用ホームページを利用して、就職情報の公開をしています。(求人情報、セミナー・会社説明会の案内、就職相談員に電子メールで相談できるページなど)

99年「就職活動」について

就職相談員

福田 徹

就職協定廃止3年目を迎えた今年の就職戦線は、一段と厳しさを増し採用活動もさらに早期化、長期化の様相を呈している。合同ガイダンスを始め会社説明会や選考についても昨年より前倒しになってきた。

長引く不況を反映し企業の採用姿勢はシビアとなり、リストラや過剰人員の検討などと共に新卒者の採用を減らす動きとなっている。特に県内企業では従来大口受け入れ先となっていた流通業、製造業、金融業が採用減もしくは採用ゼロを打ち出している。

リストラの時代になり企業はいい人材を求めて選考を厳しくするようになった。「採用のオープン化」「職種別採用」「通年採用」など採用パターンの変化と同時に「エントリーシート」による選別や「面接重視」など手法にも研究がみられる。また情報化時代の進展により、インターネットを就職活動に利用する学生が急増してきたのも特徴だ。



現在の企業が求めている人材は、やる気、熱意、積極性のある前向きで明るい人で、面接で特に重視されるのは「学生時代に何かに打ち込み結果を出せた人、適当な緊張感があり迫力を感じる人」という。

大切なことは職種や業種をよく研究することだ。人気の職種や企業ばかりに目を向けず、固定観念にとらわれないこと。選択の幅を上げよう。さらに自分の適性をよく知り何をやりたいか目的意識をしっかりと持つ。イメージだけの志望決定はミスマッチの原因になりかねない。熊本だけでなく全国に目を向けてみよう。



■平成十一年三月卒
 (株)電通九州に就職
 水町 亮

私が就職活動をする上で重視した点は「国際性」と「でかいことをやれるか」という2点だったため、受けた業種には全く偏りがありませんでした。これに基づいて様々な情報収集を行って入社試験を受けた結果、自分なりに満足した成果が得られたと思っています。

私が就職活動を通して感じたことは、「出身大学名はあまり関係ない」というだけでなく、「県立大学で学べたことが非常に強力な武器になった」ということです。情報化、グローバル化という言葉をよく



■平成十一年三月卒
 肥後銀行に就職
 山下 祐子

私の就職活動は、人との出会いから大きく影響を受けたものだった。

大学2年の秋に、起業化を実現した社長に出会えたことから、ベンチャービジネスに大変興味を持った。と同時に、男女関係なく実力で仕事をしていくのを当然のこととして受け止めていくようになっていた。

しかし、いざ3年の2月から企業をまわって見たところ、この考えが浸透している企業がまだまだ多くないことを感じさせられた。と同時に、就職活動につきものの挫折感や自信喪失を体験させられていた。

3月に、私は偶然にも「ひまわり塾」という県庁・熊本日日新聞社主催の男女参画社会の実現をテーマにしたシンポジウムにパネラーとして参加することができた。他のパネラーの方(熊本学園大学助教授、人材育成コンサルタント)は、皆「女性」という枠を越えて仕事に生きて

耳にするように、社会では語学力や情報処理及びビジネスに関する知識が基礎能力として求められています。県立大学にはこれらすべてを、学部に関係なく手を伸ばせば身に付けることができる環境があるのです。また、先輩でもある教員の方々と積極的にコミュニケーションをとることを薦めます。私の経験から、どの学科の教員の方々もいろいろな相談に気軽に乗って下さいます。アドバイスもしていただけます。また、目上の人と接する事で、マナーや言葉遣いなどにも自然と慣れます。

大学生活をただ漫然と過ごすのではなく、県立大学の「他大学にはない利点」を最大限に活用して大学生活を充実させてほしいと思います。

いる素敵な方々ばかりで、その中に肥後銀行初の女性支店長の荒木さんもいらっしゃった。

パネラーの方々とお話しをしていくうちに、自分の知識と経験の少なさに気が付かされた。私が不安に感じていた見えない仕切りは、自分から取り払えるぐらいの心づもりがなければならぬ。そして、男女を問わない、「中性的な仕事のできる人間になりたい」と感じた。そしてこの思いを後日、荒木さんにお話ししたところ、共感していただき色々な助言までいただいた。そこで「この方がいらつしやる企業(肥後銀行)で自分の歩む道を見つけていきたい」と決めた。そして、納得いく就職活動の方向をやつと掴むことができた。

仕事を始めて強く感じることは、就職活動(「内定」)はゴールではなくこれから先続く長い道のりのスタート地点に立つということである。そしてそのスタート地点に立つまでの、準備期間が大学4年間だったと思う。だから4年間で多くの経験をし、色々な人に出会ったりして納得いく準備をしてほしいと思う。

平成10年度卒業生就職状況について

昨年度は、女子大学から県立大学に移行して、第2期生を送り出すことになりましたが、卒業生の就職状況は、現在の経済状況を反映して極めて厳しいものとなりました。最終の就職決定者を就職希望者で割った就職率は、全体で85%となっています。これは前年度の数値とほぼ一致します。しかし、これまでなかった一時的な就業者ができており、内容的には厳しい状況となつています。男女別では、男子が86%、女子が84%で女子の就職状況が厳しくなつていることが窺えます。また、民間企業決定者を民間企業希望者で割つた民間企業決定率は、93.7%となつています。

学部学科毎にみると、日語日文が71%、食物栄養が84%とやや落ち込んでいるのに対して、英語英米が90%、生活環境の86%、総合管理学部の84%と厳しいながらも、良好な就職率をキープしています。

しかし、県内4年制大学の就職決定率(6月18日、熊日)では、全体で66.3%、男子72%、女子54%となつており、県内4年制大学の中では、本学は健闘していると言えるでしょう。特に女子の就職率については平均水準をかなり上回つていると言えます。

	文学部							生活科学部							総合管理学部			総計		
	日本語日本文学科			英語米英文学科				食物栄養学科			生活環境学科				総合管理学科			男	女	計
	男	女	計	男	女	計	中計	男	女	計	男	女	計	中計	男	女	計			
卒業生数	5	31	36	3	35	38	74	1	39	40	10	31	41	81	105	145	250	124	281	405
1.就職希望者	2	19	21	1	21	22	43	0	26	26	6	24	30	56	87	122	209	96	212	308
決定	1	14	15	1	21	22	37	0	22	22	6	20	26	48	75	102	177	83	179	262
未決定	1	5	6	0	0	0	6	0	4	4	0	4	4	8	12	20	32	13	33	46
就職率	50.0%	73.7%	71.4%	100.0%	100.0%	100.0%	86.0%	0.0%	84.6%	84.6%	100.0%	83.3%	86.7%	85.7%	86.2%	83.6%	84.7%	86.5%	84.4%	85.1%
2.進学希望者	2	2	4	0	3	3	7	1	3	4	4	3	7	11	6	6	12	13	17	30
決定	2	1	3	0	1	1	4	1	3	4	3	6	10	1	6	7	7	7	14	21
未決定	0	1	1	0	2	2	3	0	0	0	1	0	1	1	5	0	5	6	3	9
3.留学	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	3
4.その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	4	6	2	5	7
5.希望なし(無業)	0	2	2	0	3	3	5	0	2	2	0	0	0	2	0	3	3	0	10	10
6.不明	1	8	9	2	6	8	17	0	7	7	0	4	4	11	9	10	19	12	35	47

アメリカ文学の精神分析的批評

小園敏幸 教授〔アメリカ文学〕



私の研究はアメリカ文学であるが、中でも特にシャールウッド・アンドラスン（1876-1941）の人と作品をフロイドの精神分析学の理論を援用して考察することです。

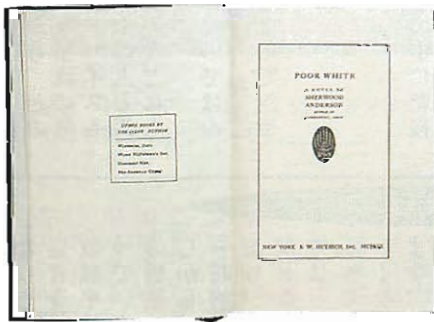
文学批評の方法としては、美学的批評、倫理的批評、社会学的批評、心理学的批評、原型批評、新批評等々があるが、私の研究分野である精神分析的批評は、心理学的批評に属します。

アンドラスンは28歳でオハイオ州のトリードで結婚し二人の息子と一人の娘が生まれ、アメリカの

物質主義の好況時代の波に乗って、塗料会社の経営者となり、実業家として一廬の成功をおさめます。ところが彼は、自分はアメリカの物質文明や出世主義の化身であり、いわば産業主義の下僕にすぎないのではないかと考えるに至り、36歳の時に妻子を捨てて放浪の旅に出ます。これが、即ち、アンドラスンが作家の道を志す切掛けであります。40歳で処女作を出版し、その後多数の長編、短編を書き続けます。代表作は「ワインズバーク・オハイオ」や「貧乏白人」です。彼は生涯に4人の女性と結婚し、一人の女性とプラトニック・ラブを経験します。これは、アンドラスンの幼児期の生活史を見るといわゆる彼のリビドーがエディプス・コンプレックスの段階に定着しているからです。アンドラスンの小説は、人間を規格化する機械文明の社会に即応出来ずに、孤

独と欲求不満に喘ぎながら、それでも尚、人間性の回復を求めて一杯に生きようとしている素朴な人々に向けられています。アンドラスンの小説は自叙伝的作品が多く、彼は、人間が人間として真に生きるためには機械工業以前の牧歌的な社会の復帰を、そして愛と理解による人間性の回復を、主張し続けた作家です。

アンドラスンの小説は、人間を規格化する機械文明の社会に即応出来ずに、孤



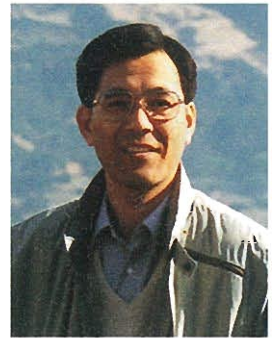
シャールウッド・アンドラスンとその著書

独と欲求不満に喘ぎながら、それでも尚、人間性の回復を求めて一杯に生きようとしている素朴な人々に向けられています。アンドラスンの小説は自叙伝的作品が多く、彼は、人間が人間として真に生きるためには機械工業以前の牧歌的な社会の復帰を、そして愛と理解による人間性の回復を、主張し続けた作家です。

アンドラスンは半世紀以上も昔の作家ですが、彼が作品で扱ったテーマとモティーフは文明の進んだ現代社会に生きる私達に最も必要なものであるように思われます。アンドラスンという不可解な未知なる人間を少しでも理解するために、私は今後もフロイド理論を援用して研究を続けていきたいと思えます。

深津和彦 教授 (高分子化学)

古い話になりますが、昭和四十年代の後半まで「戦後、強くなったものは、女性と靴下」と盛んに言われてきました。前者は戦後の民主主義（まだ完全とは言えないでしょうが）、後者はナイロンの発明によるものである。ナイロンという合成高分子材料（いわゆるプラスチック）の出現を出発点として、この半世紀の間の重化学工業の発展とともに多くのプラスチック

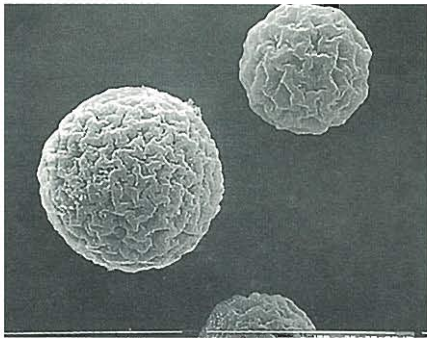


ク類が開発されてきました。そして、大量生産・大量消費社会の生活スタイルに迎合し、我々の身の回りの材料が金属、陶器、木、竹製等からプラスチック製へと大きく置き換えられてきました。自動

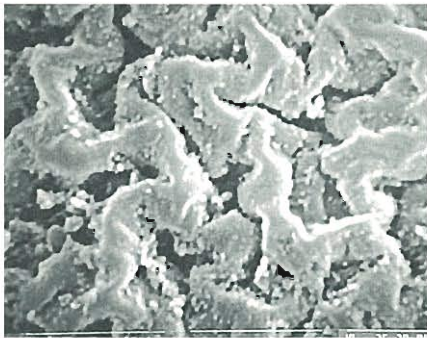
車にしても相当量のプラスチック類が使われるまでになっています。しかし、昨年あたりからプラスチック材料に対する世間の風当たりが少々強くなってきています。いわゆる環境問題におけるプラスチック類の廃棄物処理、リサイクル、またまた環境ホルモンといったものです。環境ホルモンは「殺耳に水」の感がありますが、高分子科学分野に身を置く者にとつて、今後これらの問題を避けて通ることはできないであろう。

進されることが有効であることがわかりました。プラスチック類の難燃剤としては、現在は塩素系の化合物が多用されています。しかし、これらの化合物は御存知のごとく、燃焼すれば環境ホルモンとして注目されているダイオキシンなるものの発生が危惧される物質です。最近、非塩素系難燃剤へ転換をはかる開発研究の報告が多く見られるようになりました。

待たれる環境にやさしい プラスチック材料



ポリマービーズ (×250)



ポリマービーズ (×2000)

私の研究室では、高分子材料の分解について、①熱分解と②種々の活性種による分解をテーマにした研究を行っています。熱分解では、有機高分子物質であるプラスチック類は一般に燃えやすい材料であるため、用途によっては難燃性が要求されます。種々の難燃剤との組合せによる難燃機構を熱分解特性から考察し、プラスチック類の難燃化には燃焼時に炭化が促

私ので見を基に、生分解性を持たないプラスチック類の科学的分解による環境への負荷の低減を目指して、まず水溶性高分子の活性酸素や電解発生活性種による分解について研究を開始したところ
環境共生学部の一員として、今後は生産段階の時から廃棄後のことを考えた、環境にやさしい材料を念頭に研究を進めてみたいと思
っています。

木原佳奈子 助教授 (公共政策論)



21世紀

福祉政策のゆくえは？

専門は行政学、授業では公共政策論を担当しています。

世の中には、それこそ様々な問題が存在します。個人や社会では解決できない問題が明らかになつたとき、政府がその解決に乗り出しますが、複雑に絡まり合った様々な糸を解きほぐしながら問題解決にとりくむためには、進路を示した海図が不可欠です。この海図に当たるのが公共政策です。

ところでこの公共政策ですが、それが作成される過程や実施され

る過程をみると、実に複雑な動きを示しているのがわかります。政府が一人の人間のような存在であれば、迷うことはあつても最終的には整合性のある決定を下すことができ、また一旦決定したことにについては、手足が脳の指示通りに動いてくれるでしょう。けれども政府は、多数の人から成る多数の組織によつて構成されており、ま

接近し、その動きのメカニズムを少しでも明らかにしたい、というのが研究課題です。政策過程には今や大きく官僚が関わっていますから、このような公共政策研究は、官僚の行政活動を研究の中心に据える行政学の大きな柱の一つになるのではないかと思っています。現在主として研究しているのは、福祉の分野の政策です。80年代

に始まった福祉政策の大変化は現在もとどまることを知りません。このような動きが何故生じたのか。そしてそれが方向に向かいつつあるのは何故なのか。このような問いに、「長期的な制度の変化と維持」の構造を明らかにすることにより答えてみたい、というのが現在の課題です。

た政策の決定や実施には一つの政府の範囲を超えた多数の組織が関わります。そこで、実際の政策過程は、実に複雑な動きを示すことになるわけです。ある政策がひょうたんから駒のように飛び出したり、皆が重要で、政府が解決すべき課題だと思つていても長年にわたり店晒しにされる問題があつたり、政策の方向性がいつの間にか変わつていつたり...ということば、しばしば散見されるところです。このような複雑な政策の過程に



音の伝えるもの

宮園博光

講師
〔情報工学〕
〔音響工学〕

最近、ヘッドホンで音楽を聴きながら歩いている若者や、携帯電話をかけている人を多く見かけます。CDやMD(Mini-Disk)などのポータブルプレイヤーで再生される音楽や携帯電話で運ばれる声などは、単なる音ですが、音楽はその音を作った人の意思を運び、音声は人の気持を伝えます。これらは全て、人と人とのコミュニケーションなのです。今や、自分のための音を持ち歩き、場所にとらわれないコミュニケーションを行う時代になつてきました。



音はさまざまな情報を運びますが、私の研究は、その音を聴いた人の心理的な反応を測定し、音に対する人間の情報処理を解明する事にあります。

音を持ち歩くための小さな装置には、最先端の技術がたくさん詰

まっています。その技術の中には、人間の耳の特性を利用したものもあり、最近流行しているMDには、音のデータをそのままではなく、人間の聴覚特性を用い圧縮された形で書き込んであります。人間の音に対する情報処理の解明が進めば、さらに小さいディスクにもつと、多くの情報を詰め込む事ができます。

今後、音は、臨場感や雰囲気などの空間的な多くの情報を持ちます。それらの音を持ち歩くためには、もつと情報を圧縮する必要性が出てきます。人間の空間的な音に対する情報処理が解明されれば、

音を持ち歩くための小さな装置には、最先端の技術がたくさん詰

その情報圧縮の手助けする事ができます。

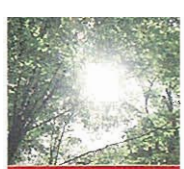
また、耳の役割は音楽を聴くだけではありません。目は後ろにはありませんが、耳は後ろの音を聴く事ができます。耳には、自分の周りで起こっている事を見つける役割があり、

そこには、音に対する注意力が働いています。音の情報を処理するために働く注意力の研究は、注意を引く音、引かない音を見つけ、本当に知らせたい情報だけを的確に教える音を作り出す事ができます。

音を持ち歩くための小さな装置には、最先端の技術がたくさん詰

将来、音はさまざまな形に姿を変え（もともと、音に形はないよ）うな気もしますが、いろいろな情報を持つ事になります。その姿を決めるためには、人間の音に対する情報処理が解明され、心が解き明かされる必要があるのです。





平成10年度に本学で発行された学術紀要を紹介いたします。

●文学部紀要

第5巻 第1号 1998年12月

現代日本語のノダと主体的表現の形式 福田嘉一郎
 Homesickness in *Dinner at the Homesick Restaurant* 徳永紀美子
 仮定法補文節における not : Potsdam (1997) についての評論 村上まどか
 Stephen Krashen versus Grammar Teaching Robert Kirkpatrick
 Deutsche Auffassungen des Tanka. Analogien, Vorurteile und deren Überwindung Andreas Wittbrodt (Mainz)
 十六・七世紀朝鮮語における形態素 'a/e' について 勝木 初美
 三論『太上妙法本指經』—『本指經』卷第十と「種・類」の思想— 山田 俊

第5巻 第2号 1999年3月

セネガルにおけるウオロフ化の進行と場面による言語選択: III. サンルイ 砂野 幸稔
 A Bilingualism of development for Senegal. Jean-Léopold Diouf
 Wolofal realities and prospects Mamadou Cissé
 戦後の台湾における日本統治期に関する研究論文・著書目録 (1945-1995) 弘谷多喜夫
 「日本考」の研究—語彙の性格—(四) 福田 益和
 三島由紀夫『金閣寺』の世界(四)—第六章の構造— 竹原 崇雄

●アドミニストレーション(総合管理学部)

第5巻1号 1998年9月

論 説

Die "Dienstleistungs-" und "Informationsgesellschaft" : eine Gesellschaft ohne Massenarbeitslosigkeit? [I] 米沢 和彦, Günther Schönbauer, 嘉目 克彦
 住民・行政関係論序説—住民参加の閉塞状況— 今川 晃久
 比較のなかの行政改革論・序説 原田 久
 研究ノート 博物館における情報システムの—考察—マルチメディア、VR技術による博物館情報の生成と公開 野村 武, 税所 幹幸, 宮園 博光, 貞広 泰造

第5巻2号 1998年12月

論 説

農協信用事業の現状と問題点 秋山 喜文
 Die "Dienstleistungs-" und "Informationsgesellschaft" : eine Gesellschaft ohne Massenarbeitslosigkeit? [II] 米沢 和彦, Günther Schönbauer, 嘉目 克彦
 高度資本主義と世界福祉国家—官僚制批判とマルクス主義— 久間 清俊
 判例研究「相続させる」遺言と登記手続きについて 赤松 秀岳

第5巻3号 1999年3月

特別寄稿

Max Weber und die Entstehung des modernen, marktorientierten Kapitalismus Wolfgang Mommsen

論 説

コーポレート・ガバナンスについて—企業統治の国際比較— 丹生谷 龍
 電力設備産業の育成と技術者養成に関する—提言— 市村 憲治, 神崎 孝政
 法と道徳の区別と連関 永尾 孝雄

第5巻4号 1999年3月

論 説

カウツキーの社会民主主義観 久間 清俊
 研究ノート 社会科学系学部における情報科学(コンピュータ) 藤尾 好則
 教育—情報システムの構築を中心に— 小泉 和重
 カナダにおける課税調和・課税協調 —連邦・州間の所得税の課税調整— 小泉 和重

●生活科学部紀要

第5巻 1999年3月

身体障害者における車椅子バスケットボール運動の意義 重松三和子, 福岡 義之
 ハロゲンイオン溶液中での電解によるアゾ染料の分解 緒方 寿恵, 田上 尚美, 深津 和彦
 フラボノイド、ポリフェノールが示す生理生化学的効果 (II) 飯尾 雅嘉
 Degradation of Poly (ethylene oxide) by Electro-Generated Active Species 森津 和彦, 荒川 俊子
 寒冷環境下の体温調節に及ぼす有風時の運動負荷と衣服開口の影響 兼子 良子, 福岡 義之, 田北智穂子
 生活科学部から環境共生部への改組転換 生活科学部 将来構想委員会

●LANGUAGE ISSUES (外国語教育センター)

vol.5 1999年3月

語彙の教授と学習について: いくつかの考察 マイケル マッコリー
 日本の大学カリキュラムにおけるライティング: 本学の調査より ジュー メルトン
 異なる学習レベルにおけるテキスト分析: スキーマ理論、形態分析、 ディヴィッド トムリンソン
 ディスコアの関連と参照 カークバトリック
 クラスルームリサーチの秘かな愉しみ ディヴィッド トムリンソン
 「音字」とは何か?: 日本の俳句界において用いられる国語学用語をめぐって リチャード ギルバート
 ドラキュラについてのいくつかの解釈: 神話、妖怪、殺人者、狂人についての熟考と映画 アレック チャールズ

文学部紀要より



三島由紀夫『金閣寺』の世界(四)

文学部 竹原 崇雄 教授

生花の師匠は、「私」が鶴川とともに南禅寺の山門の上から天授庵の茶室に見た白い乳房の女であった。柏木はその女と関係を持ち、今「飽き

来」て、その始末を「私」に押しつけようとしていた。天授庵の過去を語る「私」の前に、あの時の夢のような世界が甦り、女の目には美しい過去と捨てられた現実とが交錯する「定めぬ乱れた光」が宿った。「あの通りにして見せたげる」と言つて女は「左の乳房」を「私」に示した。しかし、それは、「あの通り」ではなかつた。そこにはすでに、柏木の粘りついて離れない絶望的な「人生」の顔龐の気配が漂つていた。「私」の前に示された乳房を見て、その時「私」を襲つた「眩暈」とともに、目の前の現実とは「一定の質量を持つた肉」、「一個の物体にすぎない」ものとなつて、「生の全体から切り離され」、ただそこに「露呈さ

れてあるもの」となり、「無意味な肉の断片」の中に、「遠い神秘な白い」世界はその光を喪つたのである。その時、金閣が現れ乳房は「金閣に変貌」する。そしてその「金閣」は「私」と女との間を隔てるのである。「乳房」が「乳房」そのものの原理に覆る時それは美に近づく。しかし、「形態」ある乳房は永遠の美とはなり得ない。遊廓の女「まり子」のそのよつに、乳房の上に蠶をそとませたまま「死のやうな假寐に落ちた女」とともに「腹取り」崩壊していくのである。



写真は「金閣寺」の主人公のモデル林養賢が生まれ育った舞鶴市郊外の成生碑。二十軒ほどの村の奥の山の麓下に西徳寺はある。他の地区からは画然と地形的に区切られたところ。海の水が美しく、それだけに寂しいところであった。

「身体障害者における車椅子バスケットボール運動の意義」



環境共生学部

重松三和子 助教
福岡 義之 助教

長野パラリンピックでの日本選手団の活躍は記憶に新しい。今年本県で「熊本ハートフル団体」が開催される。

このような機運のもと、身体障害者が車椅子バスケットボールを行うことの意義について、日頃の練習などについてのアンケート調査を実施し、また実際の練習について心拍数の測定を行い検討した。



写真1



写真2

LANGUAGE ISSUES (外国語教育センター) より

「日本の大学カリキュラムにおけるライティング」

環境共生学部
ジェーメルトン 講師

少子化で入学生が減少する昨今、大学では学生のニーズを満たすカリキュラムを組む努力が必要とされています。だからこそカリキュラムは常に慎重に組

まれます。学生にどのような課題を課すべきか、又学生のライティングの実力に対する教員の姿勢または感想はどのようなものかを調査するため、最近私は大学全体の教員にアンケートを配布しました。内容は、日本語のライティング、英語のライティング、回答者のライティングに対する姿勢という3つのセクションに分けました。最初の2つのセクションでは、学生に課する提出物の種類、頻度、そして学生のライティングのレベルが高いと思うかどうかを尋ね、最後のセクションではライティングの重要性、そして当大学のカリキュラムでのライティングに関する物事の決定権は誰にあるべきかを尋ねました。

アンケートの回収率は93人中26人と満足度のいくものではありませんでした。回答の共通点からいくつかの結論を得ることが出来ました。ひとつは日本語でのライティングの課題はレポートやテキストの要約が殆どで、反面英語のライティングの場合は様々な課題が出されている事。そして全ての回答者が英語は少なくとも重要と答えた事。結果、私達教員のこれからの課題はそれぞれの(学部の)学生に見合う英語教授法を見いだす事だと感じました。

私は将来このようなリサーチが更に進められればと願っています。そうすれば学生も大学生活またその先必要になってくるスキルと知識を大学でしっかり身につける事ができるはずで



写真3

ストレス解消」があげられ、週3回約2時間の練習を行っていた。また、練習や試合の時の「運動のきつき(自覚的運動強度RPE)」については、「少しきつき」が最も多く、特に試合になると「きつき」とてもきついの割合が多くなっていた。このことから日頃の練習の中に、大会での試合を想定した練習やトレーニングの組み立てが必要と思われる。

この自覚的運動強度(RPE)は、比較的トレーニングを行っている人は、運動時の心拍数の上昇と、その時に感じる運動のきつき(6〜20で表され、10倍すると、その時の運動の心拍数を予測できる)が、ほぼ一致する。これは、普段運動経験のない人には、見られない現象である。

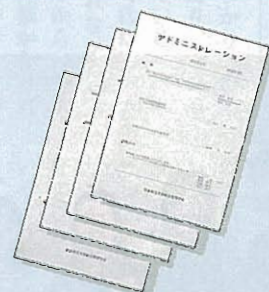
次に、熊本県車椅子バスケットボール選手を対象に、日頃行っている練習について無観戦の心拍モニタリングを用いて、運動強度の測定を行った。その結果、基礎練習中では平均で130拍/分、練習試合では150拍/分まで上昇した。この結果により、心拍数から推定した身体への負担度は約80%であり、高強度のトレーニングであった。

さらに、主力メンバー3名のエネルギー代謝能力を腕運動で測定したところ健常者と大差なく(写真3、また2時間のトレーニングで消費するエネルギーは110kcalと上腕だけの運動としてはかなりレベルであった。以上の結果から、車椅子バスケットボール運動は、エネルギー代謝の高い運動であることから、心肺機能の向上、肥満の抑制に効果的であることが明らかになった。熊本ハートフル団体での選手団の健闘を期待したい。

「住民・行政関係論序説」
「住民参加の閉塞状況」

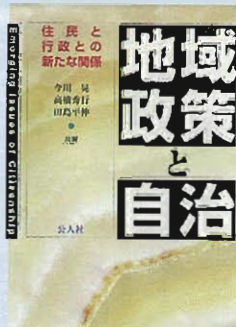


総合管理学部
今川 晃 教授



公共の役割を担うのは行政である、という考え方が日本では伝統的に定着している。そのため、町内会やボランティア団体などの住民団体は行政の政策執行過程で利用される傾向が強かった。しかしながら、近年、各種まちづくり団体の活動や住民の自治意識の成熟によって、みずからより良い地域を形成しようとする動きが全国に見られるようになった。このことは、もはや公共領域は行政の独占物ではないことを告げている。したがって公共領域は住民や住民団体も担うものであり、行政の役割領域は住民や住民団体が形成するものであるとする時代を迎えつつあるのである。こうした視点は、地方分権の進行、特定非営利活動促進法の制定によって、ますます重要となつ

てきたのである。政策執行過程のみならず政策形成過程においても住民や住民団体の役割に着目する必要がある。そこで、本稿は住民および住民団体と行政とのこれからの関係のあり方を展望したものである。なお、本稿を加筆、若干発展させた論文は、(今川晃、高橋秀行、岡島平伸著)『地域政策と自治』(公人社)に収められているので、こちらもご覧いただければ幸いです。



「地域政策と自治」
——住民と行政との新たな関係——
今川晃、高橋秀行、岡島平伸 著
公人社刊

謎に包まれた?
星乃先生に
7つの質問



文学部 助教授 星乃治彦 (西洋史)

- まずは身近なところから。
- Q1 好きな食べ物は何ですか?
- A ちくわ(?!すでに謎です)
- Q2 家に帰ってまずすることは何?
- A ごはんを作る・食べる
- Q3 今もつとも気になることは?
- A コソボ問題がどう解決するか
老後の生活(いきなり超現実的ですか)
- Q4 今まで行ったところでもつとも印象的だった所は?
- A ベルリン。決してきれいな街ではないけれどもなんだか一生懸命現代を生きているような気がするから。
- Q5 25年後、自分はどうしている?
- A ベルリンに住んで、毎日博物



文学部 英語英米文学科4年
田中亜樹子

- 館や美術館めぐって暮らしている。
- Q6 今一番欲しいものは?
- A ピカソの『ゲルニカ』。家に飾っておきたい。(??とてもじゃないですがふつうの家には入りませんよね??先生)。
- Q7 では最後に、「県立大のここが変わったらいいな」というところは?
- A 図書館。ハードは十分だと思います。あとは資料の充実と人員の充実。
- という、とつとも楽しい(?)先生です。皆さん、先生の謎は解明されたでしょうか?これでもまだ物足りない方は一度先生のもとを訪れてみてはいかがでしょう。か。お話し好きのとってもいい先生ですよ。



総合管理学部 助教授 高埜 健 (国際関係論) (写真中央)

ある時は国際政治学者、
ある時はお笑い芸人、
そしてある時は――
しかし、その実態は……



総合管理学部4年
西本 貴(写真左)
井上毅彦(写真右)

国籍不明の風貌に洒落たつもり
の口髭、ときに小粋なジョーク(ほとんどの時は時代遅れの)「おやじギャグ」(、そして、夏にはタオルを手放せないほどの熱血漢ぶり(単なる汗っかきとのウワサも)……高埜先生はそのすべてを兼ね備えた、ちよつと類を見ないラテン系な先生です。

そんな先生の専門は、東南アジアを中心とする政治・国際関係で、ASEANの研究が主要テーマです。現在のゼミは4年生9名3年生9名。先生は兄貴分的オーラをまわつて(少し暑苦しい)私たちをまとめてくれます。御自宅に招いて下さることもあり、先生の料理とお酒を囲みながら、時にはシリアスな(大半はオオボケな)会話で、先生と学生という壁を越えてしまうような錯覚に陥ることもしばしば。数々の思いっきりな失礼を、その寛大な心で許してもらつてきた私たちです。

しかし、ゼミでの英書講読や卒論発表となると、適切な指示とアドバイスを与えて下さる一方、中途半端を絶対許しません。白亜祭での展示発表にもこだわりを持っています。優しさと厳しさを使い分けつつ、私たちをおだてたり叱ったりと、先生も苦労されているようですが、卒業しても、絆が絶えることはないだろうと自然に感じさせてくれる高埜先生なのです。

プラハ再訪

■文学部 教授 元古田瑞枝(平成10年9月〜平成11年3月までドイツに留学研修)



随筆

—新しいプラハのカフカ?—

ドイツとチェコは地つづきの隣国にすぎない。現にそのようにして、カフカも20世紀の初め、フェリーツェのいるベルリンなどへ列車で出かけていったのである。私が前にプラハを訪ねたのは1984年夏、15年前のことであるが、当時はドイツでヴィザとホテルの申請をし、その回答がくるのを長く待っていたのちに旅行が実現したのだ。前回と今回の訪問の間には、単に大変長い時間が経過しているだけではなく、東欧の社会主義体制が崩壊するという大変化があったのである。

チェコ共和国の首都プラハは、作家のフランツ・カフカが生まれ、ほぼ全生涯を過ごした街である。この街でドイツ語を話すユダヤ人として過ごしたことが、彼の文学に深く関わっていることは夙に知られており、私は、今回のドイツでの研修中、ブダペストと共にプラハを再訪することを、かねて計画していたが、それは、1999年1月中旬、真冬の最中に実行された。ドイツからブダペストまで飛行機で行き、帰途、ブダペストからウィーンへ、そしてウィーンからプラハへと列車で旅をし、プラハからも列車でドイツへ帰ったのである。国境が自由に行き来できるようになってみれば、

ことだが、カフカにゆかりの場所のレストランがあつたり、カフカのTシャツまで現れているのには驚いた。社会主義の時代には、カフカはあまり評価されなかった。ようやく60年代後半から、チェコの研究者達からの評価がなされるようになっていったが、それでも私が最初に訪れた1984年に至つてもなお、生家の外壁に、カフカの顔の目立たない小さなレリーフがあるだけであり、この街の人々が彼にさして大きな関心を払っているようには見えなかった。その反動もあるのか、カフカは今や、チェコの若い人達にとっても愛読されているようである。何年前か前、旧ゲット地区を中心に、そこに散在するシナゴグ(ユダヤ教の教会)を開放してのフェスティバルがあつた時、多くの若いチェコの人達が参加したと聞いた。それも、彼らが、カフカやプラハのユダヤ文化に対して、みずからのもので、シンパシーと誇りを抱いていることを物語つて

前回、15年前に訪れた時の印象では、夏の最中だったこともあって、西欧からの旅行者が溢れ、現地の人達の姿はその影に隠れているように思えたが、今回は、シーズン・オフだったせいもあつて旅行者の姿は少なく、雪も散らつく氷点下の寒さの中、現地の人達の活気の方が目にとまった。その中心は、商店や飲食店等の賑わいであるが、そんな中で、以前には全く見られなかつたカフカ関係のグッズが出回っているのが眼にとまった。チェコ語に翻訳された彼の作品やビデオや絵葉書は無論の

いる出来事のように思える。しかしそれだけではなく、カフカ・グッズの氾濫は、カフカが外国人に対して、チェコの現代作家にもまして「売れる」ことに気づき、目をつけた人達がいることも示しているようだ。

プラハの表通りを歩くと、東ドイツ等と比べてまだ新鮮に感じられる自由の気分の享受と共に、両替や商店の看板等、急激にやつてきた資本主義化の徴候ばかりが目立つが、一歩裏に入つて、迷路のような路地を歩いてみると、中世的な古めかしさにおいても貧しさの点でも、昔のプラハの面影が残つていた。そのような一角の、今にも壊れそうな建物の片隅に、日本や中国のお茶を専門にした狭い喫茶店があり、若い人達でいっぱいだった。そこにいた一人の少年に、「抹茶」や「煎茶」や「抹茶入り玄米茶」などとローマ字で書かれたお茶の味について尋ねると、「気分が爽快になつて、何でもできるついでという気になるんだ、マリファナなんか問題にならない」という思いがけない答えが返つてきた。見回すと、皆、お茶を前にして、活発に夢中で話し込んでいるのだ。お茶の効用?否、東洋のお茶の流行は新しくても、暗い貧しい路地裏に燃える精神の

炎、それは様々な歴史の波を潜りながらも、カフカが生きていた20世紀初頭から変わらず続いてきたものに違いない。



大学生

入学してからずっと、至るところで、「有意義な大学生活を!!」と言われてきたような気がする。愚かな私は、「勉強はもちろん、サークル活動やアルバイト、そして遊びにだって、いつでも全力投球している人こそ、真の大学生なのだ」と思い込み、早速実行。そして、見事に挫折した。今思えば、私にとつてあの言葉は洗脳に近いものがあった(笑)。自分がそんなに器用なタイプの人間じゃないことくらいわかっていたはずなのになあ。確かに、私の周りには、何に対しても積極的で、いろんなことを要領よくこなしている人が何人もいる。すごいなあとは思わけれど、真似しようとは思わない。もしも真似できたとしても、それが私にとつて有意義と言えるかどうかはわからない。「有意義」を画一化してしまつたら、大学生活なんて本当につまらないものになつてしまう。大学生活だけではない、私の人生は、誰からも評価される必要なんてないんだ。

そんなことを考えていたら、「私の大学生活もまんざらじゃないなあ」と思えてきた。



文学部
日本語日本文学科3年

(写真前列左から3番目)

清本 真澄

期待

私は大学に入つて、一体自分が何をすればいいのかわからなかった。もちろん、自分の夢や目標の為に大学へ来たのだから、勉強すればいいのだけれど、強自分の大学生活の中であつた自分の何かがあつたと思つて、と他に何かがあると思つて、と他にならなくは、その「何か」を探そうとしていた。でも、その時は結局見つからず、とりあえず思いつままにやりたかつた事や、やりた事をしている中で私はいろいろな人と出会うことができたし、その中で自分が見てきた気がした。本当にやりたい事は探そうと出たりするものではなく、日々の偶然の中で自然と出てくるものなんだとつくづく感じた。だけど身であれ物事に対して受け身ではな

ばいいというかもしれない。当たり前のことかもしれないが、私は今しかできない様々な事を経験したいと思つている。そう思つていれば、これから先の出会い、すばらしい人々との出会い、や自分の将来に大きく影響するような出来事があると思つている。



(写真右)

環境共生学部環境共生学科
居住環境学専攻1年

渡邊 幸子

V

O

出逢いに感謝

総合管理学部3年

黒瀬 美由季

今あのことがなかったら
 かつた、自分はその人となら
 逢いは誰が経験してな
 ると思う。出逢いは自分
 の思想形成に多大なる刺
 激を与えてくれるもので
 ある。

私は年齢も職業も異な
 った個性豊かな人達との
 ランティア団体に属して
 いる。そこで青少年のポ
 全育成を図るため、子供
 たちと一緒に、子供健
 込み、叱咤激励し合い、
 感動を共有している。忘
 れ去った大事な思い出、
 直す素晴らしい出逢いの
 場である。また大学の
 も恩師・友人・後輩、あ
 らゆる出逢いがあり、あ
 りゆる成長があり、私
 力になつてくれる。原動
 力、共に笑っている。学
 行錯誤を繰り返して、試
 のプロセスから自分を探
 索している。真ん中であ
 る。こんな風に思えるの
 もたたくさんのおかげだ。
 いがあるおかげで、出逢
 いは照れくさくて、言えな
 いけど、この場を借りて
 ありがとうを言いたい。

このスピードな世
 の中で一生懸命に
 わちやう、地を逸し
 足をついて、前向き
 ジティブに、頑張るぞ!!



(写真中央)



サークル便り

ダイビング部

文学部日本語日本文学科

三年 中野誠志

ダイビング部は、月曜日のミ
ーティング・土曜日のプールト
レ・日曜日の海洋講習といった
活動をインストラクターの坂田
氏の御指導の下、毎週行ってい
ます。
主な活動の場は天草・牛深で
すが、年に四回行う合宿では、
鹿児島・沖縄まで遠征します。
昨年、助成金を使って水中カ
メラを部で購入したことでよ
り、ダイビングの幅が大きく広
がりました。その成果を今年の
白亜祭で披露できると思いま
す。皆さん期待しててください。

グライダー部

生活科学部

四年 大重美緒

私達グライダー部は、久住や
白川での合宿を中心とした活動
を行っています。残念ながら機
体を持っていないため、九州各
地の大学と共に合宿を行って
います。そのため、他大学の友達
がたくさんできます。また、活
動範囲が広く、九州だけでなく
全国各地の行事にも参加し、今
春にはオーストラリア遠征も行
いました。グライダーはあまり
知られていないスポーツです
が、大学でしかできないことを
してみたい人にはやりがいがあ
ると思います。是非遊びに来て
下さい。

国際倶楽部

文学部日本語日本文学科

二年 渕上裕子

私たち国際倶楽部は、「国際交流」
を目的とした様々な企画を出し合っ
て、活動を行っています。

定期的なものとしては、まず、中
国語講座・韓国語講座があります。
ここでは、週一回ずつ、留学生たち
に基礎から教えてもらっています。
それから、日本語教室も週二回行っ
ています。ここでは逆に、私たちが
外国の方に日本語を教えています。
もちろん私たちだけでは力不足です
ので、日本語教師経験者の方々にも
来ていただいて、一緒に勉強させて

マンドリン クラブ

総合管理学部

三年 武本 悟

マンドリンクラブは、友達が
欲しい人や、音楽に溺れたい人
が、奇偶にも、マンドリンとい
う名の下に集結したというコン
セプトで活動しています。それ
でも、水準を下げないように部
内演奏会を開催したり、夏合宿
(写真)に行ったり、鍋や釣り
をしたり、対外的には依頼演奏
に出張したりと大忙しです。初
心者がほとんどですが、音楽の
楽しみ方のひとつとして、マン
ドリンを伝えていければと思っ
ています。

もらっています。

その他にも、不定期ではありま
すが、国際料理教室や、国際交
流会なども行っています。
また、新しい企画として、留
学生を対象とした日本語でのフ

リートークも考えているところ
です。

以上の企画に興味のある方、
あるいは面白いアイデアをお持ち
の方は、ぜひ一緒に国際交流
しましょう！





平成6年度卒(生活科学部生活環境学科)
堀田祐三子
(神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程在学中)

出 会 い

私が熊本県立大学を卒業して、はや4年が過ぎた。私は、現在在籍している神戸大学を含め、県立大学、熊本大学とイギリスのパーミンガム大学と、4つの大学で学生生活を送った。この学生生活で、私は本当にたくさんの人々と出会うことができ、そしてたくさんの方々の刺激を受けた。県立大での4年間は、学友に恵まれた。彼女たちは、今でも叱咤激励してくれる大切な仲間である。熊本とイギリスでの修士課程の計3年間は、私にとっては試験の日々とも言える時間であった。と、同時に、世界中の人々と交流し、自分の世界を広げることができた時間もあつた。熊本大学の修士課程では、これまでの勉強不足を実感し、何をすることも壁にぶち当たっていた。その壁を乗り越えることができたのが、パーミンガムでの1年であった。イギリスでの生活での理想と現実のギャップに悩まされながらも、多くの人と出会い、そして様々な価値観に触れた。また、何もできない自分に自信を失っていた時、何でもできると励まし、学位取得にまで導いてくださった指導教官や、まわりで温かくエールを送ってくれていた国籍の違う仲間達に支えられた。私が、今、こうして自分があるのも、そしてやりたいことを続けていられるのも、これまでに会ったたくさんの人々からの支えのおかげである。

卒業生からのメッセージ

message for you



平成10年度卒(総合管理学部)
新屋智人
(アサヒビール (株) 勤務)

学生の時は、自分の好きなこと、関心のあることに何でも手を出していたと思います。外国を一人で2ヶ月ぐらいいくつか一つで歩き回ったり、クラブでは大学で初めて野球部に入ったり、ボランティアにも参加して障害者の方とカヌーを楽しんだり、多くの経験をしました。学生の時には社会人の方から「学生のうちに好きなことやつといた方がいいよ」とよく言われていました。実際に私も働き始めると、時間を思う存分使って自分の好きなことに熱中するのは、現実的に難しいと感じています。ですから学生の時にしかできない経験や、学生だからできるという学生特権をどんどん使い、色々な事に挑戦してみれば良い経験ができると思います。

私は6月まで先輩に同行して営業の研修を行っています。研修は、福岡、北九州、長崎と転々としながら、コンビニやスーパー、ディスプレイカウンター、トストアの本部へ商談に行ったり、老夫婦の営む小さな酒屋へ行ったりと様々です。店舗の規模や地域、県民性により、それぞれのブラザーの営業のやり方が違い、自分にとって本当に勉強になっていきます。帰りが遅くなることも多いのですが、充実した生活を毎日送っています。これから蒸し暑い夏になりますが、ビールを飲んで乗り切り、その際は「ドライ」をご指名下さい。

体 験

祥明大^{さんみよん}學校(大韓民國) 短期學生研修團の受入れ

今年も大韓民國の祥明大^{さんみよん}學校(平成元年に本學と姉妹大學提携を締結)からの短期學生研修團の受入れが行われました。今回で10回目となります。

6月26日から7月5日までの10日間、同校の日語日文學専攻の學生10名(男子2名、女子8名)が來學、本學學生宅に滞在しながら日本語の授業(本學大學院生による)、サークル見学、自治会主催交流会、日帰り研修旅行などに参加し、本學學生との交流を深めました。

今年はまだ、引率のため同校の梁先生も來學され、両校間の友好関係がさらに発展するよう本學教



員との協議の場がもたれました。

このほか祥明大^{さんみよん}學校とは、毎年数名の短期留學生(1年間)を相互に派遣し合っています。本學からの派遣は例年2月に行っており、その募集は派遣開始の前々年の秋頃に実施しています。



祥明大^{さんみよん}學校短期學生研修團歡迎會 (1999.6.28)



サークル見学の様子 (1999.6.29)



自治会主催交流会 (1999.7.1)

モンタナ州立大学ボーズマン校冬期研修

アメリカ合衆國のモンタナ州立大學ボーズマン校(平成9年に本學と學生交流協定を締結)での冬期研修が今年も2月17日から3月11日にかけて行われました。この研修は昨年の冬から実施されており、2回目となる今回は20名の學生が参加しました。出発前は不安そうだった参加者達もお互い研修中につきり打ちとけ、元気に帰国しました。研修内容は、



英語の授業を中心に、スキーやエクスカージョン、ホームステイ等が盛り込まれたものとなっており、充実しています。この研修は好評で、来年の冬に昨年同様の内容で実施する予定です。一度海外に行ってみてほしいと思っている人にもよい機会ですので奮って参加して下さい。



99 JALスカラシッププログラム くアジア・オセアニア地域の大学生との交流く

(財)日航財団主催のJALスカラシッププログラムが今年も実施され、招聘生(アジア・オセアニア地域の大学生)36名が日本を訪れます。

このプログラムは、①日本理解講座②日本の3都市の大学における「事前学習」③シンポジウム「アジアフォーラム in 京都」(テーマ…アジアの共生を考える―世界の中のアジア、アジアの中の日本―)での発表・討議を内容としています。

このうち、②の「事前学習」は、a)慶應義塾大学(藤沢)、b)立命館大学(京都)、c)熊本県立大学(熊本)、の3大学に招聘生を分けて実施されます。

昨年の本学での「事前学習」

が大変好評であったため、今年も8月5日から16日までの12日間、12名の招聘生を受け入れることになりました。昨年同様、総合管理学部高埜助教授の指導のもと、本学学生と共に勉強会、ホームステイ、バスハイク等を行います。

本学学生にとってもアジア・オセアニアの学生達と英語で議論し、生活を共にすることは貴重な体験となります。国際感覚を養うひとつのステップとなることが期待されます。



昨年のJALスカラシッププログラム「事前学習」の様子

大学院 アドミニストレーション 研究科(博士課程) 設置 文部省協議

大学院アドミニストレーション研究科は、総合管理学部を基礎とし、公共行政(パブリック・アドミニストレーション)と企業経営(ビジネス・アドミニストレーション)を包括し、実際の行政や企業活動を教育研究する日本で初めての研究科として、平成10年4月、修士課程が設置されました。

このアドミニストレーション研究科にさらに博士課程を平成12年4月に設置すべく、今年6月末に文部省に協議書を提出しました。



アドミニストレーション研究科ゼミ風景

新型パソコンで情報アクセスが 快適になりました。

情報処理実習室

この4月から、情報処理実習室の177台のパソコンが新しくなり、連日大勢の利用者でにぎわっています。以前から、講義に使用していない実習室を自己学習用に開放していますが、今年からは例年以上の活発な利用がみられます。その理由としては、

- ①最新のパソコン導入で軽快な処理が出来ること
- ②高性能液晶画面で目に優しく、疲れにくいこと
- ③初心者向けのキーボード入力練習ソフトから、中・上級者向けのプログラム言語まで多彩なソフトが用意されていること
- ④メールサーバ、プロキシサーバとの通信の高速化によりインターネット、電子メールのアクセスが飛躍的に良くなったこと
- ⑤大容量MO(光磁気ディスク)の採用で、画像や音声を個人ファイルとして活用できること

などが挙げられます。また本学ホームページにイントラネット用(学内専用)の項目を設け、

- ①就職情報(求人情報、セミナー案内、内定者の体験談等)
- ②図書検索(蔵書検索、貸出情報等)
- ③ネットワーク利用情報(実習室利用マニュアル、コンピュータウイルス情報等)

といった情報を実習室にいなからゲット出来ることも大きいでしょう。当然、希望企業の情報をゲットする、求人資料を請求する、履歴書、自己PR文を送る、等の就職活動は実習室からインターネット経由で日常的に行われています。

新型パソコンで情報アクセスが快適になった情報処理実習室を活用して、充実した学生生活を送ってください。



情報処理実習室

TOEICが学内で受験できることを ご存じですか。

TOEIC (Test of English for International Communication) は、英語コミュニケーション力を測定する試験で、アメリカで開発され、世界約50カ国で実施されています。また、国内の多くの企業が、社員採用や、研修の際にTOEICを利用しており、その数も年々増加しているそうです。

外国語教育センターでは、自主事業として、TOEIC ITP (団体試験) を春と秋の年2回実施しており、学内で、通常の公開テストより安い金額で受験することができます。

就職活動を控え、自己のレベルを上げておきたい人や、自分が現在の程度の英語力を有しているか知りたい人は、ぜひ受験してください。

詳細は外国語教育センターへ。



各種TOEIC関連教材 (外国語教育センター テープライブラリー所蔵)

インターンシップ「体験実習講座」

インターンシップ(学生の就業体験実習)は、学生の職業に対する意識を高め、適切な職業選択を行えるようにすることなどを目的として、最近、様々な大学で実施されるようになってきています。

本学においても、昨年の夏に総合管理学部で水保市役所等に学生を派遣しました。(前号 vol.12 で紹介しました。)

また、今年3月に、熊本公共職業安定所主催によりインターンシップ導入促進を目的とした「体験実習講座」が実施されました。それには本学学生が次のとおり参加、更にこの8月実施の平成11年度同講座にも参加を予定しています。このような機会を積極的に活用し、将来の進路を自分自身でしっかり考えましよう。

平成12年度入学者選抜概要

平成12年度の入学者選抜概要を6月下旬に発表しました。昨年度と変更された主な点は次のとおりです。

1) 環境共生学部の一一般選抜の試験教科・科目を一部変更しました(文学部、総合管理学部は変更ありません)。

2) 環境共生学部においても、社会人特別選抜、帰国子女特別選抜、私費外国人留学生特別選抜を実施します(文学部及び総合管理学部では従来より実施しています)。



詳細は教務課へお尋ねください。

また、平成12年度の入試概要や過去の入試実績等を「入試情報」として、本学のホームページ (<http://www.pu.kumamoto.ac.jp/>) で公開しています。どうぞご利用ください。

平成10年度「体験実習講座」実績

実習時期	受入れ事業所	職種	参加学生(学年は当時)
平成11年3月	熊本中央信用金庫	事務	総合管理学部3年 岩本絵美
	・	事務	総合管理学部3年 緒方敏子
	熊本県商工会連合会	事務	文学部3年 高田由子
	・	事務	生活科学部3年 大重美緒
	熊本岩田屋	販売	文学部3年 有村佳子
	・	販売	総合管理学部3年 浦野淳子

平成11年度「体験実習講座」予定

実習時期	受入れ事業所	職種	人員
平成11年8月	熊本商工会議所	事務	2
	肥後銀行	事務	2
	熊本屋百貨店	販売	2
	熊本岩田屋	販売	2

平成12年度入試募集人員

学部	学科・専攻	入学定員	募集人員			
			一般選抜		特別選抜	
			前期日程	後期日程	推薦入学	社会人・帰国子女・私費外国人留学生
文学部	日本語日本文学科	40	5	30	4	各若干名
	英語英米文学科	40	5	30	4	各若干名
環境共生学部	生態・環境資源学専攻	20	14	4	2	各若干名
	居住環境学専攻	40	28	8	4	各若干名
総合管理学部	食・健康環境学専攻	40	28	8	4	各若干名
	総合管理学科	280	120	A方式 45 B方式 45 C方式 20	50	各若干名
合 計		460	202	190	68	

一年次のためのキャンパスライフセミナー



大学に入学したばかりの頃は、これからの大学生活をどのように過ごして良いかわからないのではと思われまます。そのような一年次を対象に、どのようにすれば高い意識を持つて有意義な大学生活を送ることが出来るかを考えるためのヒントとすることが出来るよう「一年次のためのキャンパスライフセミナー」が開催されました。

第1回目となる今年度のセミナーは、6月25日(金)に大講義室において、本学の卒業生でRKK熊本放送のディレクターをされている中村レンさんを講師に招いて行われました。

学生時代には勉強の他、サークル活動、友達づくり、アルバイトその他いろいろなることを積極的に一生懸命やるべき、それが自分の進路を決めるときにも社会に出たときにも役立つし、学生時代にしかできないこと、とご自分の体験を交えながら講演されました。

また、このほかにも学生の進路・就職意識の啓発を図ることを目的としたセミナーを各年次毎に実施しました。



講師
中村レン氏
平成3年度に本学文学部英文学科を卒業。現在、RKK熊本放送ラジオ制作部のディレクターで「おー、わらナイト」(月～金 21:10～)などの番組を担当。

環境共生学部初めての入試、第一期生一〇四名が入学。

今年4月に開設された環境共生学部の初めての入試が1月から2月にかけて行われました。まず、年明け早々1月10日に実施された推薦入学には、10名の募集人員に対し68名が志願、13名が合格しました。続いて実施された一般選抜



一般選抜前日程合格発表(1999.3.5)

は、他学部と同様分離分割方式で行われ、90名の募集人員に対し438名が志願、91名が合格、志願倍率は4.9倍と狭き門になりました。その入試に合格し、第一期生104名が入学。4月7日に県立劇場で行われた入学式に他学部の新入生



平成11年度入学式(1999.4.7 於:県立劇場)

松垣 裕 前学長が叙勲受章



本学の前学長で名誉教授の松垣裕氏が平成11年春の叙勲で勲二等瑞宝章を受章されました。

松垣 裕氏は、熊本大学の文
学部長等をつとめられたあと、
昭和63年9月に本学の学長(当
時は「熊本女子大学」学長)に
就任、本学が男女共学の総合大
学「熊本県立大学」となった後
の平成6年8月まで学長をつと
められました。

授業公開講座 受講者募集

一般社会人の方々が正規の授業を本学学生と一緒に受ける「授業公開講座」の平成11年度後期の受講者募集を行います。リーズナブルで気軽に大学の授業を聴講できるため、開講以來たいへん好評をいただいております。今回の募集期間等は次のとおりとなっています。

対象：18歳以上の一般の方
募集期間：平成11年8月16日から8月31日まで
受講料(半年間)：1科目につき4000円
開講科目数：32科目
開講科目や申し込み方法の詳細は本学教務課 (tel 096-383-2929) へお尋ねください。



環境共生学部開設式(1999.4.7 於:本学中講義室2)

と共に出席し、本学学生の仲間入りを果たしました。
また、環境共生学部においては、入学式の後、場所を本学に移して「環境共生学部開設式」が開催されました。第一期生を前に、手島学長、望月熊本県総務部長、菅野学部長が挨拶、同学部教員の紹介などが行われました。

環境共生学部平成11年度入試結果(単位:人)

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
推薦入学	68 (生14,居16,食38)	68 (生14,居16,食38)	13 (生4,居5,食4)	13 (生4,居5,食4)	
一般選抜	前期	258 (生58,居101,食99)	245 (生54,居100,食91)	71 (生15,居28,食28)	71 (生15,居28,食28)
	後期	180 (生41,居72,食67)	98 (生26,居38,食34)	20 (生4,居8,食8)	20 (生4,居8,食8)
	計	438 (生99,居173,食166)	343 (生80,居138,食125)	91 (生19,居36,食36)	91 (生19,居36,食36)

※()内は専攻毎の内数。「生」は生態・環境応用専攻、「居」は居住環境学専攻、「食」は食・健康環境学専攻

役職紹介(平成11年4月現在)

- 学長 手島 孝
 - 事務局長 古田勝人
 - 事務局次長 村上建二
 - 文学部長 福田益和(文学部教授)
 - 環境共生学部長 菅野道廣(環境共生学部教授)
 - 総合管理学部長 渡邊榮文(総合管理学部教授)
 - 学生部長 深津和彦(環境共生学部教授)
 - 附属図書館長 秋山喜文(総合管理学部教授)
 - 外国語教育センター所長 元吉瑞枝(文学部教授)
- ※は平成11年度4月就任。他は継続。

新任教員紹介

- ◆文学部
 - 教授 小園敬幸(米文学)
 - 講師 Cleary, Farrell David(英語)
 - 講師 清水啓子(英語学)
 - 講師 Kirpatrick, Robert(英語)
 - 講師 米谷隆史(日本語学)
 - ◆環境共生学部
 - 教授 中村泰人(環境設備システム学)
 - 教授 篠原亮太(水環境管理学)
 - 教授 有國幸司(食品安全性学)
 - 助教授 坪原紳二(都市居住政策学)
 - 講師 Melton, Jay(英語)
 - 講師 張 代洲(大気環境学)
 - 講師 山田俊弘(森林生態学)
 - 助手 加来志保子
 - 助手 竹下桂子
 - 助手 赤星亜朱香
- (就任年月:いずれも平成11年4月)

Incident

(1999.3~1999.6)

月	日	内容
H11.3月	上旬	インターンシップ「体験学習講座」
	1日	個人模擬面接週間(～5日)
	12日	入学試験(一般選抜(後期))
	15日	卒業式(於:県立劇場)
	15日	韓国・祥明大学校短期留学生受入れ(～平成12年1月)
4月	17日	学内公務員講座合宿(～19日)
	25日	春季休業(～4月8日)
	1日	環境共生学部設置
	5日	在学生オリエンテーション
	5日	4年次健康診断(～7日)
	7日	入学式(於:県立劇場)
	7日	環境共生学部開設式
	7日	新入生オリエンテーション(～8日)
	9日	授業開始
	9日	奨学金、授業料減免説明会
16日	求人票送付依頼	
22日	平成11年度各種公務員採用説明会(～23日)	
5月	2日	開学記念日
	11日	国際交流懇談会
	18日	外国語教育センター自由講座(前期)開講
	20日	情報処理技術者認定の国家試験対策勉強会(～10月)
	29日	第1回TOEIC IPテスト
6月	31日	1～3年次健康診断(～6月11日)
	25日	大学院アドミニストレーション研究科博士課程 文部省協議
	25日	1年次のためのキャンパスライフセミナー
	26日	祥明大学校短期学生研修団受入(～7月5日)
28日	九州インカレ夏季競技大会	

Schedule

(1999.7~2000.3)

月	日	内容
H11.7月	7日	夏休み直前講演会
	8日	3年次就職ガイダンス
	9日	4年次就職ガイダンス
	11日	夏季休業(文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科)(～9月5日)
12月、15日	26日	公務員ガイダンス
	26日	前期試験(総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(～30日)
8月	月内	企業見学会
	上旬	インターンシップ「体験実習講座」(5日間)
	上旬	企業採用状況(追加・二次募集)調査
	1日	夏季休業(総合管理学部、アドミニストレーション研究科)(～9月30日)
	2日	大学説明会(高校教員向け)
	5日	JALスカラシッププログラム招聘学生受入れ(～16日)
	8日	オープンキャンパス
	16日	授業公開講座受講者募集(後期)(～31日)
	下旬	モンタナ州立大学ボーズマン校へ短期留学生派遣(最長1年間)
	下旬	総合管理学部インターンシップ
9月	6日	授業再開(文学部、環境共生学部、生活科学部、文学研究科、全学共通科目)
	11日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(修士課程)(前期)(～12日)
	24日	前期試験(文学部、環境共生学部、生活科学部、全学共通科目)(～30日)
10月	月内	企業訪問開始(～平成12年3月)
	月内	3年次進路個人面談
	上旬	就職講演会
	上旬	公務員ガイダンス
	上旬	公開模擬模擬面接(3年次対象)
	上旬	外国語教育センター自由講座(後期)開講
	1日	後期授業開始
	中旬	学内公務員講座(2年次向け、3年次向け)開講(～平成12年6月)
	13日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程)(前期)
	下旬	第1回3・4年次民間企業就職懇談会
下旬	日本語教育課程の日本語教育実習(於:祥明大学校)	
下旬	第2回TOEIC IPテスト	
11月	月内	就職シンポジウム
	月内	第1回企業との意見交換会
	月内	国家公務員試験説明会
	上旬	地域講演会(全3回)
	6日	白垂祭(～7日)
	下旬	職業適性検査
	下旬	就職活動マナー講座
22日	九州インカレ冬季競技大会(～12月14日)	
12月	月内	第1回学内公務員模擬試験(～平成12年5月まで8回程度実施)
	上旬	公開講演会(全2回)
	5日	入学試験(特別選抜(推薦入学、社会人、帰国子女))
	中旬	就職ミニガイダンス
24日	冬季休業(～1月9日)	
H12.1月	月内	第1回学内教員模擬試験(～5月まで3回程度実施)
	中旬	就職ミニガイダンス
	中旬	教員ガイダンス
	11日	授業再開
	15日	大学入試センター試験(～16日)
2月	月内	授業公開講座受講者募集(平成12年度前期)(～3月上旬)
	1日	後期試験(～10日)
	中旬	祥明大学校への短期留学生派遣(～平成13年1月)
	中旬	モンタナ州立大学ボーズマン校への短期留学生派遣(～3月上旬)
	中旬	就職セミナー週開 (マナー講座、SPI模試、エントリーシート対策講座、第2回3・4年次民間企業就職懇談会、公務員試験懇談会、企業研究会、第2回企業との意見交換会)
	11日	入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(修士課程)(後期)(～12日)
	15日	入学試験(大学院文学研究科(修士課程)(後期))
	15日	入学試験(特別選抜(私費外国人留学生))
	25日	入学試験(一般選抜(前期))
	13日	入学試験(一般選抜(後期))
3月	15日	卒業式(於:県立劇場)
	下旬	祥明大学校短期留学生受入れ(～平成13年2月)





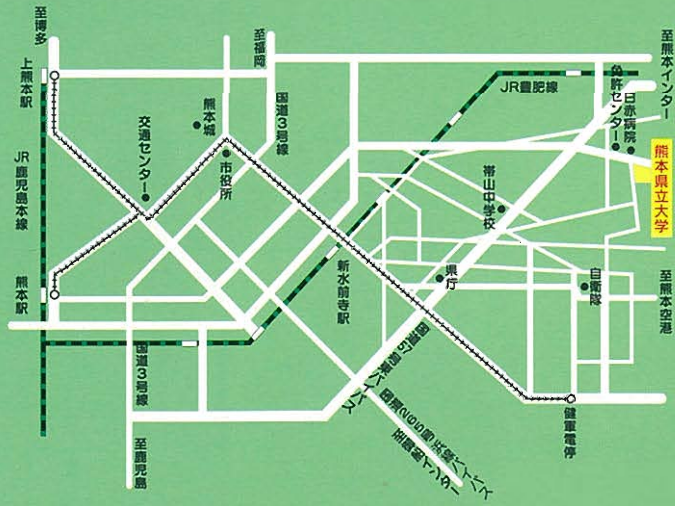
編集後記

今回の春秋彩は「就職」を特集で取り上げました。今年も相変わらず厳しいようですが、後悔しないよう自分自身でよく考え積極的に行動し、かつ有意義な大学生活を送ってもらいたいと思います。

ご意見 感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。
みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていき
たいと考えておりますのでよろしくお願ひします。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学事務局総務企画課 「春秋彩」担当行
FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp

位置・アクセス



- バスを利用する場合
JR熊本駅よりバスで約10分、交通センター下車。交通センターのC番のりばから、長嶺団地行き、または日赤経由月行きバスで約40分、日赤病院前、または県立大通りで下車、すぐ。(駅前の市電通りのバス停より、ほぼすべてのバスが交通センターを経由します。)
- タクシーを利用する場合
熊本駅から 所要時間…約40分 料金…約3,000円
水前寺駅から 所要時間…約15分 料金…約1,200円
熊本空港から 所要時間…約30分 料金…約3,000円



熊本県立大学

PREFECTURAL
UNIVERSITY
OF KUMAMOTO



発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929 (代) FAX.096(384)6765
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

11 総 熊県大
③ 002-1



古紙配合率40%再生紙を使用しています